会議録（要点記録）

令和３・４年度　堺市南区政策会議 堺市南区政策会議構成員と堺市南区選出市議会議員との意見交換会	
開催日時	令和４年１０月３１日(月)　　午後３時００分～
開催場所	国際障害者交流センター（ビッグ・アイ）大研修室１・２
堺市南区 政策会議 構成員	安全安心創出・未来共創推進部会　　近藤部会長、岸本職務代理者 育ち学び充実・健康長寿推進部会　　松久部会長、大島職務代理者 ブランド戦略推進・魅力創造部会　　橋爪部会長、西村職務代理者
堺市南区 選出 市議会議員	藤本議員、伊豆丸議員、的場議員、信貴議員、 小堀議員、三宅議員、　田渕議員、吉川議員
事務局 管理職員	堺市　　佐小区長 南区役所　　植松副区長・谷口副区長 上山参事・西村参事・吉田総務課長・喜多区政企画室長・ 牧市民課長・仲田自治推進課長・米村保険年金課長・ 吉田生活援護課長・西地域福祉課長・音田子育て支援課長・ 為野南保健センター次長 市長公室　　手取政策企画部先進事業担当課長 泉北ニューデザイン推進室 北口事業推進担当課長
議題	１．開会 ２．議題 各部会における議論の報告及び今後の方向性について ３．閉会
配付資料	・次第 ・配席図 ・資料１　南区独自の防災力向上モデル（案） ・資料２　南区独自の防災力向上モデル ひらめき・アイデアのカタログ２０２２年度版 ・資料３　子育て・教育、健康長寿などにおける南区ウェルビーイング （Ｗｅｌｌ－ｂｅｉｎｇ）総合プロジェクト（案） ・資料４　南区ブランド戦略（案） ・資料５　南区ブランド戦略「戦略内容」について ・参考資料１　構成員名簿 ・参考資料２　令和３・４年度堺市南区政策会議概要

審議状況	開会（午後３時００分） １．開会 谷口副区長 定刻となりましたので、ただいまから、堺市南区政策会議に関する堺市南区選出議員の皆様との意見交換会を始めます。私、本日の司会を務めさせていただきます、南区役所副区長の谷口でございます。どうぞよろしくお願いいたします。 それでは、開会に当たりまして、南区長の佐小よりご挨拶申し上げます。 南区長 皆様におかれましては、平素より区行政の推進に当たりまして、大変ご理解を賜り誠にありがとうございます。また、本日はご多用中のところ意見交換会にご出席いただき厚くお礼を申し上げます。 堺市南区政策会議は、南区の特性に応じた政策形成を進め、もって特色ある区行政の実現に資することを目的として設置しました。なお、南区では、他区とは異なりまして、令和３年３月に策定しました堺市南区基本計画の３つの基本方針に基づき、３つの専門部会を立ち上げたところでございます。いずれの部会におきましても、南区の課題を踏まえた多くの貴重なご意見が提出されました。私どもとしましては、それを受けまして、今後の南区の取組の方向性を案といたしまして、お手元の資料のとおりまとめさせていただきました。 本日はこれらの案につきまして、皆様の高い識見と豊かな経験から、忌憚のないご意見を頂戴いたしまして、意見交換をお願いしたいと考えております。限られた時間ではございますが、皆様、どうぞよろしくお願いいたします。 谷口副区長 それでは、これから始めさせていただきます。本日は、会議内容の記録のため録音をさせていただきますこと、また、写真撮影をさせていただきますこと、ご了承のほどよろしくお願いいたします。 では、はじめに、資料のご確認をお願いします。 ≪資料確認≫ では、次に、本日出席者のご紹介をいたします。 ≪堺市南区選出市議会議員紹介≫ ≪堺市南区政策会議構成員紹介≫ ≪南区役所管理職員紹介≫ 谷口副区長 では、本日の会議の進行について説明いたします。 まず、各部会長から５分程度で報告をお願いいたします。全ての部会長から報告いただきました後、それぞれの部会について２０分程度意見交換のお時間を取らせていただきます。なお、本日は１６時３０分の終了を予定しておりますので、皆様におかれましては進行にご協力のほど何とぞよろしくお願いいたします。 ２．意見交換 谷口副区長 それでは、次第２に移ります。

	令和３年度から始まりました堺市南区政策会議において、各部会におけるこれまでの議論内容や主な方向性について、部会長から報告をいただきます。 まず、安全安心創出・未来共創推進部会の近藤部会長、よろしくお願いいたします。 近藤部会長 自然災害が頻発する時代を迎えています。災害のリスクは高まる一方で、ここ南区においても、昨今でも豪雨災害がありました。土砂災害のリスクもあります。南海トラフ巨大地震が起きますと地域全体が被害を被るわけです。しかし、それに立ち向かうべき社会の力が少し痩せ細っているかもしれない。少子高齢化している社会の中でどのように向き合うのかというのを、この部会では話し合ってきました。自助努力だけに任せていては救われない命があるだろう。じゃあ、どうすれば助け合えるのか、ということで、資料１にありますとおり、南区独自の助け合いの輪、「～“あたらしい共助”の輪を広げよう～」こうしたスローガンを掲げました。目標は、災害から命を守るため、全ての区民が防災力を高め、誰一人取りこぼさないこと、安全・安心な未来をともに創っていくことであります。 資料１にありますとおり、５つの柱を考えました。そして、対応するもの、資料２も同時に広げていただくと読み取りやすいかと思います。１から５の柱に対応して、１、２、３、４、５それぞれを補強するためのアイデアも部会の中で出し合いました。簡単にご説明したいと思います。 第１の柱は、この場で言いました自助の努力をさらに徹底すること。南区では防災の取組があちらこちらで行われていますけれども、特に防災の催しを定期的に行うような、そうしたキャンペーン効果を狙った動きが必要ではないかと、そうした議論を行いました。 ２番目は、重要なポイントになります。防災福祉について書いてあります。誰一人取りこぼさない防災福祉を進めよう。立場の弱い方が取り残される、取りこぼされるようなことがないように、全部自助努力に任せるのではなくて、助け合えるような関係づくり、そして、一度災害が起きたときには、身を寄せられる福祉的なケアが受けられる福祉避難所や福祉的避難スペースを拡充していこうという考え方です。 ３番目の柱、これがポイントになります。既存の枠組を超えたあたらしい共助の形を確立しよう。ほかの自治体ではまだなかなかここまでは踏み込んでうたっていない考え方になります。新しい共助とは何なのか、これまでの既存の枠組でいえば、地域の防災、共助の活動は、自治会単位で行うのが普通でした。もしくはそれを束ねるのが、小学校区単位でした。しかし、どうでしょうか、自治会に加入する人が激減している。そして、自治会の規模も格差がある。学校との距離も随分ばらつきがあって、隣の小学校区に避難したほうがいいという人も大勢出ている。災害が起きるときは、物理的に近い場所のほうが同時にやられている可能性もあります。そうであるならば、土砂災害のリスクが高いところをサポートするのが、少々離れていても、南区の海側、海に近いほうのゾーンから支援をするような、ここでは遠助と書きましたが、遠い助けの枠組なども考えてはどうか、そうしたアイデアも出ました。そして、小学校区の単位を超えて大規模災害を想定した中学校区単位のレベル、小学校区同士の連携を模索してはどうか、こうしたアイデアも出ています。さらに、資料２に含み込みましたとおり、様々な関係主体があります。南区には大学が３つあると聞いています。大学と連携すれば若者が支援に駆けつけてくれるかもしれない。たくさんの事業所がある、様々な資材がある、ノウハウがある、そうしたところと独自の協定や覚書を結んではどうか。そうしたアイデアも出ました。 そして、４番目、５番目。これはとても基本的な考え方になりますけれども、

	４番目は、時間軸で未来に向かって人材を育てていく枠組をしっかり備えておこう。地域でも、家庭でも、そして、学校でも、事業所でも、人材を教育する。南区では防災リーダーを育成する防災士の支援制度があるようですけれども、さらに次の未来につなぐために、こども防災リーダーの認証制度などをつくってはどうか、こうしたユニークなアイデアも飛び出しました。最後、５つ目は、様々な取組を散発的に行っていると、よく分からない、一体何をしているのか見えなくなるので、情報のプラットフォームが欲しいというアイデア、これもたくさん出ました。南区はスマートシティの構想も持っていますので、デジタルのプラットフォームを設けておけば、災害時にも、そして、平素、防災の力を高めるためにも活用できるはずです。さらに忘れてならないのは、「弱い立場の人を取りこぼさないこと」ということですので、例えば現在であれば、アナログな情報の共有スペースやプラットフォームなども必要、ご年配の方を取りこぼすことのないような情報共有策も欲しい、そういう意見もたくさん出ました。 　以上、５つの柱、そして、様々なアイデアを束ねて、南区の防災力を強化していきたい。安全・安心なまちになることが南区のブランドイメージに資するような、そうした取組に育てば、きっと多くの人が幸せで、健康で、豊かな暮らしが過ごせるのではないかと考えています。安全安心創出・未来共創推進部会からの報告は以上になります。 谷口副区長 　続きまして、育ち学び充実・健康長寿推進部会の松久部会長、よろしくお願いいたします。 松久部会長 　育ち学び充実・健康長寿推進部会は、令和３年度からこれまで計４回の部会を開催いたしました。部会では、自己肯定感や自己有用感の醸成について議論を行い、また、特別構成員を招いて健康寿命の延伸と介護予防の推進についての講演をいただき、専門的知見を踏まえた中で子育て・教育、健康長寿などにおける「南区ウェルビーイング（Ｗｅｌｌ－ｂｅｉｎｇ）総合プロジェクト」をまとめるに至りました。「ウェルビーイング」という言葉を、「『よくあること』、『幸福』など、南区では区民にとって生活が幸せで満足できる状態、また、自分らしく生きがいを感じて暮らすことができる状態を表現する言葉」と定義しています。これは資料の一番下のほうにも書いてあります。 　このプロジェクトでは、「誰一人取り残さない、個に寄り添った『最大多様・最大幸福』のサービスを提供し、人がいきいきと輝き、幸せで心身ともに健やかに暮らせる都市（まち）の実現をめざす」ことを目的としています。 　視点として、「乳幼児期から高齢期のすべての世代を対象とする。」「個に応じた選択肢を提供する。」「自己肯定感醸成のための『安心な居場所と活躍のための出番』を創る。」「世代や属性を超えたニーズや課題を受け止め、必要な事業や機関につなぐ。」「ＩＣＴなどの先端技術を活用する。」といった５つを捉えております。従来の最大多数のサービスから、最大多様のサービスへ、南区役所内の関係機関が区民の世代や属性を超えた複雑多様化するニーズや課題を受け止めて、誰一人取り残さないように対応するものです。 　内容としましては、「子育て・教育、健康長寿など、区民のウェルビーイング（Ｗｅｌｌ－ｂｅｉｎｇ）につながる様々なプロジェクトや事業を展開する。」「区民のウェルビーイング（Ｗｅｌｌ－ｂｅｉｎｇ）につながるプロジェクトや事業を検証して、世代や属性別に体系化、データベース化し、南区役所内の関係機関で共有する。」「広報媒体を活用した事業参加・健診受診に係る勧奨や現行事業の見直し・強化などによって、区民の関心や課題意識を高める。」「区民それぞれのニーズや課題に応じてウェルビーイング（Ｗｅｌｌ－ｂｅｉｎｇ）の実

	現をサポートするため、南区役所内関係機関がデータベースから事業・サービス等をプログラムとして区民に提供する。」といったところを考えております。特に、南区をフィールドとして実施している子育て・教育、健康長寿など、区民のウェルビーイングにつながる様々な事業やサービス等の取組を横断的に整理し、窓口等で直接市民に寄り添いながら対応できるといった区役所の強みを生かし、窓口対応者が区民のニーズや課題を踏まえ、必要に応じて事業・サービス等をプログラムとして区民に提供したり、自らの組織で対応できない場合は、対応できる関係機関を紹介していただくことで、南区役所の包括的な相談支援体制の強化につながるのではないかと考えています。加えて、内容の３点目、「広報媒体を活用した事業参加・健診受診に係る勧奨や現行事業の見直し・強化などによって、区民の関心や課題意識を高める」に関わる部分について、南区で実施する取組などに対し、参加・利用に否定的な方や否定的でなくとも先延ばしにしている方、迷っている方などがいらっしゃるとのことです。このような方に対してどのようにアプローチしたらよいのか、どのようにすれば参加や受診を促すことができるのかということが、南区の大きな課題としてあげられるとのことから、その課題解決に向けたアイデア、ヒントなどについて議論いたしました。議論では、健診や赤ちゃん訪問など必ず利用される機会に、プラスアルファの情報を提供してはどうか。高齢者には大きな字の分かりやすい資料提供、電話での対応、親世代や若者に対しては、２４時間対応可能なＳＮＳを活用した情報提供や相談体制、駅やコンビニエンスストアなど、多くの人が利用する場所でのＱＲコードの活用による情報発信などを、アイデア、ヒントとしてまとめたところです。これらのアイデア、ヒントなどを様々な取組に生かしていただくことで、例えば健診の受診率や健康意識の向上、また、講座等への参加促進につながればうれしいと思っております。 　はじめに目的の中でお伝えしたように、本プロジェクトを通して南区役所では、誰一人取り残さない個に寄り添ったサービス提供の強化に取り組んでいただきたいと思っております。以上です。 谷口副区長 　次に、ブランド戦略推進・魅力創造部会の橋爪部会長、よろしくお願いいたします。 橋爪部会長 　堺市政とは３０年来ご縁がございまして、以前は美術館やワッショイ２０００の構想、立案、あるいはベイエリアに関しましては、堺浜の地名の選定の委員長をつとめさせていただきました。近年では、市全体の総合計画、基本計画立案、あと、歴史的風致維持向上計画にも委員として参加させていただいております。この間、堺市政とご縁がある中で、南区に関しましては、やはり緑豊かな都市公園が広くある点が個性かと思いました。堺市全体の１人当たりの都市公園面積は、他の政令市と比べても高いとはいえないんですけども、南区に限りますと全国にも誇るべきすばらしい都市公園がある。あと上神谷の棚田や農村の風景もすばらしいと、かねて思っておりました。そういう思いを持ちまして、今回、南区のブランド戦略推進・魅力創造部会の部会長を務めさせていただきました。 　我々の部会では、令和３年度から４回の部会を開催いたしました。部会では、南区として打ち出していくべき南区ブランドが何かということを議論し、どのような戦略を展開していくのかということをさらに議論いたしました。お手元に南区ブランド戦略（案）があると思いますけども、検討案をまとめた段階でございます。現在の案にありましては、キーワードとして「＆ＧＲＥＥＮｓ」という言葉を掲げてございます。資料４には、「堺市南区でみどりとともにかなえる豊かな暮らし、【ＬＩＶＥ・ＰＬＡＹ・ＷＯＲＫ】」、そして「＆ＧＲＥＥＮｓ」と

	あります。「＆ＧＲＥＥＮｓ」の下に「南区と分かる表現」と書いておりますが、「＆ＧＲＥＥＮｓ」だけでは場所がどこか分かりませんので、ここに堺市南区だというふうなことが分かるような文言を入れてキャッチコピーを固めたいということです。 この「＆ＧＲＥＥＮｓ」の考え方の中には、今ご説明いただきましたほかの２つの部会、「安全・安心・健康・癒し」なども含まれているものと我々は考えております。安全・安心も緑十字等に代表されますが、緑色のイメージっていうのは癒し、安全だというふうなイメージがあります。あと、健康も、緑色のカラーイメージと非常に親和性がある。あるいは、平仮名の「みどり」と書いた場合も、「安全・安心・健康・癒し」と連携する概念であると思っております。また、最近デジタル庁がデジタル田園都市などで、「ウェルビーイング」という言葉を使っております。従来とは違う幸福、幸せな暮らしのまちの在り方、そのまちごとのウェルビーイングを考えていかなければいけないと思います。私どもでは堺市南区にふさわしいウェルビーイングが、この「＆ＧＲＥＥＮｓ」、緑豊かなまちであるということに基盤を置きながら、新たなウェルビーイングを考えたいと検討をいたしました。 南区ブランド戦略（案）では、この「あふれる緑を活用した南区ブランドの確立により、都市魅力を向上させ、若年層をはじめとした人口の流入・定着を促すことで、地域力の強化を図り、未来につながるイノベーティブな南区をめざす。」ということを目的に掲げております。 戦略方針といたしまして、「シビックプライドの醸成」、区民の皆様が南区に対して誇りを持っていただけるような方針、あと「ブランド価値の共創」、多くの方がともに新しいブランド価値を創り上げる、そういうことを戦略として示してまいりたいと思っております。 具体的には南区ブランド「＆ＧＲＥＥＮｓ」のストーリー化、物語性を展開していこうということと、南区ブランド「＆ＧＲＥＥＮｓ」の浸透、できるだけ多くの方に、南区は緑の豊かな地域であるということをアピールしてまいりたいと思います。 ストーリー化では、資料５をご覧いただきますと、３つの柱を立てております。「『豊かな育ち』の実現」、「『豊かな恵み』の活用」、「『豊かなくらし』の共感」でございます。具体的にこの「＆ＧＲＥＥＮｓ」、緑のある豊かなまちであることを分かっていただけるようなストーリーを組み上げてまいりたいということであります。 「『豊かな育ち』の実現」の中身といたしましては、例えば、自然体験を通じた南区ならではの「豊かな育ち」を考えてまいりたい。現在、「田んぼにＧＯ！畑にＧＯ！」の事業が実施されており、自然体験の場が提供されています。今後、各施設でも同様の取組を展開することにより、南区におきましては自然体験の情報発信、教育機関との連携等が十分できるようなしくみを構築してまいりたいということであります。 「『豊かな恵み』の活用」に関しましては、農業関係者、大学と連携し、特産品をよりアピールしたい。例えば上神谷のお米とか泉北のレモンなどなど、様々な農産物をアピールしたいと考えております。 「『豊かなくらし』の共感」におきましては、ＳＮＳやホームページを通じましてＰＲをしたい、緑の中で、こんな豊かな生活をかなえたい、実現したいと多くの方に共感いただくような発信をしたい、また、上神谷地域周辺を中心とした歴史を生かしたまちの暮らしの在り方等もＰＲしたいと思っております。「南区リビングヘリテージ（生きている遺産）」の価値の共感なども、試みとして面白いのではないか、という議論をいたしました。また、次の、「南区ブランド『＆ＧＲＥＥＮｓ』の浸透」にもつながるところですが、多くの暮らし方の具体的な在り方を示しながら、それを情報発信ということにしたいということで、このよ

うに示させていただいております。
　次に、２つ目の戦略ですが、「南区ブランド『＆ＧＲＥＥＮｓ』の浸透」ということで、ここにも３つの柱、「ロゴマークによるイメージの確立」、「データサイトによる『みどり』の可視化」、「ＳＮＳの活用による魅力発信」を掲げております。先ほどの戦略とも共通するところですが、南区は緑のあるまち、豊かなまちである、ここで暮らしたい、というイメージを確立させて認知度を高めてまいりたい。大阪の中でも暮らしやすい、住みやすい街ランキング等でも南区にある各駅の周辺が上位となれば私は思っております。
　また、事業の柱の一つとしましては、ロゴマークをきっちりつくりたい。今のところ仮置きで、「＆ＧＲＥＥＮｓ」という活字で示しておりますが、これをぜひデザイン化いたしまして、地域におきます企業、大学、区民の皆様の活動等にもこのロゴマークをうまく使っていただくような、そんな展開ができないものかと思っております。
　２つ目の柱にあります「データサイトによる可視化」については、南区に関するデータを集約いたしましたサイト、「データの森『みなみ』」におきまして、視覚的にＰＲしていくということを考えています。先ほど申し上げたように、ほかの地域よりもはるかに緑があるまちだというデータも、多くの区民の方はなかなか共有されていないかと思います。あるいは様々な自然の中で遊び等もできるんだというふうなことが特徴でありますので、そういうことが共有できるようなサイトをつくってまいりたい。
　　最後に、近年は盛んなＳＮＳの発信によって、南区ブランド「＆ＧＲＥＥＮｓ」の効果的な発信を強化したいと考えております。私からの報告は以上でございます。

谷口副区長
　それでは、これより意見交換に移ります。安全安心創出・未来共創推進部会の近藤部会長よりご報告いただきました内容について、堺市南区選出市議会議員の皆様よりご意見を賜りたいと思います。
　この部会よりいただきました意見を踏まえまして、「南区独自の防災力向上モデル（案）」及び「ひらめき・アイデアのカタログ」をまとめております。今回は、特に南区独自の取組となる第２の柱、「誰ひとり取りこぼさない『防災福祉』を進めよう」と、第３の柱、「既存の枠組をこえた“あたらしい共助”のかたちを確立しよう」、これに焦点を当てたいと思います。第２の柱については、アイデアカタログの２で、「防災福祉」という考え方の啓発について、そして、「防災福祉」のリーダーやサポーターの育成についてを論点とします。第３の柱については、自治会間の連携策の拡充や小学校区単位を超えた防災訓練の実施を論点といたしますので、ご意見をいただけますと幸いです。もちろん、このほかのご意見でも結構です。
　では、議員の皆様、どなたからでも結構でございます。ご意見がありましたらお願いいたします。

田渕議員
　共感するところが大半で、あとは、アイデアというか、もう少しこういう角度はどうでしょうかという話をさせていただきたいと思います。
　まず、防災については、まさにオール南区で、という点、そのとおりで、堺区なんかは津波を意識して、率先避難を事業所あげて行っており、垂直避難ということで、マンションとかホテルとかビルをまさに総当たりして、いかにこの方々を家で逃げていただくのかを考えているんです。なかなか南区は今そういう実態ではない。また、「誰一人取りこぼさない」というところは、最近防災会でも様々学びまして、やはりこれからは防災の分野と福祉の分野が、いかに連携して

	いくか。要支援者とか要配慮者についてはほとんど福祉分野の方が専門なんですよね。民生委員もそうでしょう。そこに防災がどういう連携していくのかが大事だと思います。 　あと、３つ目の枠組なんですけれども、例えば美原区では、防災マイスター制度があります。防災士資格を有している方で、災害に対する支援の実績があるなどいくつか要件を満たすとマイスターになれるというものです。こういう防災にはトップリーダーのスペシャリストと併せて、子どもの意識を変える、学生の意識を変えるということは、ものすごく大事だと思っていて、感動いたしました。よくここまで意見を出されたなと。ですので、南区の事情を考えると、単位自治会が連合に入っていないところもあるんでしょうね。その方々は必要性を感じているのです。なので、どうアプローチしていくのかですね。ここが課題だと思っております。以上です。 　近藤部会長 　まず、堺市全体のことでいいますと、南海トラフ巨大地震を想定して、津波避難というのが一大テーマになっているところもあります。内陸にある南区はどうなるかというと、南海トラフ巨大地震が起きた場合、多分ほかからの救助が来ない、どちらかと言えば素通りされて、南区で頑張ってくださいねということになると思います。マスメディアの取材を受けることもほぼないんだと思います。そうなった場合に、自立、自活していけるかという危機感をまず共有する必要があると思います。そのときに福祉の観点、昨今ではインクルーシブ防災と言いまして、全ての人を包み込むための防災を広げていきましょう、ということを世界防災会議などで議論しているところです。民生委員さんの枠組を使うというのはどの自治体でも行っていますが、民生委員さん自体が高齢化していて立ち行かないという状況がある。では、民生委員さんをどうやってサポートするか。今回、御池台校区に視察に参りまして、防災福祉の独自の計画を持っていらっしゃるんですね。民生委員さんをサポートするしくみを日常的につくっていらっしゃいました。そういうアイデアを南区全体に広げていく必要があると考えます。御池台では、地区防災計画をつくって、その中に福祉の観点を含んだ。これはすばらしいことです。でも、地区防災計画をつくっていないところをどうサポートするかという考えが生まれなくなってしまうんですね。自分たちの地区を守りたいという思いが強まれば強まるほど、ほかの地区がどうなろうとも知らないとなりかねないので、地区での取組とともに南区全体の取組を広げるという意識が芽生えるようにする必要があると思います。私、地区防災計画学会という学会の幹事をしておりまして、計画をつくることのメリットもあるんですけども、最近デメリットも出てきました。資源の奪い合いにならないような形でオール南区で頑張ろうっていう気持ちを盛り上げていただけるといいかなと思います。そうした点でマイスター制度もいいですね。ぜひ子どもたちの元気、自己効力感につながるように、やればできるんだよっていう思いが育つような防災のしくみ、福祉のしくみもあるといいと考えます。 　小堀議員 　新しい共助の輪を広げようということで、まさに今地域のつながる力、ソーシャル・キャピタルの低下が非常に叫ばれている中、ここに着目をしていただいたのは非常にありがたいなと思っています。この南区の自治連合会のトップが入られている部会において、「既存の枠組を超えた」というのを第３の柱に掲げていただけたことが非常に心強いなと思っております。というのも、このことは、行政サイドからはなかなか出せる話ではないからです。一方で、地域自治組織とかいろいろなしくみをつくって、いかにつながる力を高めていくのか。日常的につながる力がないことには、とてもじゃないけれども、いざといったときに機能し

	ないということは、東日本などでもはっきりしていると思います。そういった中で、実際に、民生委員さんの高齢化のお話もしていただきました。まちびらきから５０年を超えて、２０２５年には２人に１人が６５歳以上という準限界集落になろうとする中で、つながる力を高めていくために、我々はどういった取組をしていけばいいとお考えなのか、ぜひお聞かせいただけたら大変ありがたいなと思ってございます。以上です。 近藤部会長 とても難しい、とても重要な質問をいただいたと思います。今、福井県で、高齢化率７０％を超えた集落の土砂災害に警戒する防災の取組を進めています。この動きを見るときに重要な点は２つだけ。これは命に関わる問題なんだという危機感が芽生えれば、ご高齢の方でもやれることをやっておこう、単に助けられるだけでは駄目だという意識が芽生えます。動きが生まれます。もう１点は、愛着ですかね、ふるさとに対する愛着の心があれば、このまちで暮らしてきたんだし、このまちの防災力に貢献したり、安全・安心を高める一員になろう、そういうメンバーシップが芽生えます。今回の南区ブランド戦略（案）で「みどり」に着眼されていますけども、まさにこれ、この南区を愛する気持ちがあれば、「南区の安全・安心に貢献できるように手を取り結びたい。」と思っていただけるはずです。プラスの面とマイナスの面ですね。北風と太陽ですね。両面から心をサポートしないと、くじけてしまう人が続出すると思います。この自然災害のリスクの問題は、日本が避けられない難題なんですね。簡単な解決策はもうないので、時間をじっくりかけるつもりで、次の世代を育てるつもりで取組を持続していただきたい。打ち上げ花火で終わるんじゃなくて、ずっとやっていくんですよっていうふうに、キャンペーンになるようにリレーしていただけるといいのではないかと思います。 小堀議員 ちなみに福井県のどちらでしょうか。 近藤部会長 私が関わってるのは福井県福井市の高須集落というところです。出会う皆様が７０代のおじいちゃん、おばあちゃんばかりですけれども、見守り隊というものを結成してお互いの生活をサポートしています。これは、民生委員ではない独自の枠組をつくっていらっしゃるんですね。だから、個人情報の問題を簡単にクリアして、ふだんから何が困っているかの情報も共有して取り組んでいらっしゃいます。 信貴議員 この機会なんで、近藤先生に専門的な分野からぜひともご指導いただきたいです。「既存の枠組を超えて」、「小学校区単位など超えて防災訓練」云々ということについて、私も非常に重要なことだと思います。これまで避難所のことでいろいろ議会でも私も取り組んできたのですが、当然に自分の学校の体育館でしか避難できないということもないと思います。本当は通っている学校よりも隣の学校のほうが実は近いお子さんもいらっしゃいますので、そういった場合にはそこに避難するということも当然やっていただきたいと思いますし、あるいは外出中に大きな地震が起きて家まで帰れなくなった場合、そういうときも近くの避難所に一旦駆け込むということもしていただいてもいいと思います。今の枠組、自分の小学校単位にとらわれる必要はもちろんないと思います。一方で、避難所の数が今の市民全員の分を準備できているかというと全くそうではなくて、市民の数と避難できる数が大きく乖離していたと思います。物理的な問題もあるので仕方

	がないのですが、加えて、近年、避難所でのストレスを感じないようにするために、例えばプライバシーに配慮したカーテンを設置するであったりとか、そういうことをすれば、またさらに入れる人も減っていく。それに加えてコロナ禍で、ある程度、避難している人たちの間隔も空けなければいけないということも、これから避難所を運営するに当たって注意していかなければならない。なので、いろんな枠組を超えて避難をすることは当然積極的にやっていかなければならないんですが、一方で、我々が想定したことないような大きな地震、まさに南海トラフなどが来たときに、避難できるところがないというような状況に陥ってしまわないだろうか、と私も危惧をして議会でも取り組んできました。近年、避難所に行くだけではなく、しっかりと耐震化されているおうちでは、自宅で待機、避難をするという考え方もあるのは分かっておりますけども、そういったことを踏まえて、大きな地震が来たときにはどういうふうに避難を考えたらいいのか、ぜひとも教えていただきたいと思います。 近藤部会長 ご質問ありがとうございます。公的な避難所は基本的に、要配慮者のために空けてあげるぐらいの構えをつくらない限りそもそも足りません。普通の避難所に水害の被災地などに行くと、いの一番に来た人は大体元気な人なんですね。早く駆けつけて、場所取り、炊き出しおいしくいただきたいからです。そんなまちづくりをしていては立ち行かない。先ほどおっしゃったとおり、「頑丈な家に住んでいる方で被害が軽微であればおうちでやり過ごしてください。弱い立場の方を避難所に連れていってください。」そういう声掛けのほうが、リアリティーがあると思います。コロナ禍において分散避難が求められているので、宿泊施設と協定を結んで利用するという取組が日本中で進んでいます。ホテルのみならずスーパー銭湯とか。関西広域連合でいえばゴルフ場などの土地がある場所を使う。災害時にはレジャーする人はいなくなりますので、逆に宿泊施設は空いているわけです。それから、車を使った分散避難にたくさんの自治体が今取り組んでいます。避難してきた車を駐車できる広い駐車場と協定を結んでおく、こういうやり方です。車はプライバシーが確保できる、暖房も取れる、ラジオで情報も取れる。ずっと過ごしていれば健康にはよくないということですけれども、うまく活用すれば車は財産ですので、賢く車を使った避難を早期に成し遂げましょうというキャンペーンを始めている自治体は、関西にもいくつもあります。戻りますけれども、目的は、多少のストレスなんて我慢すればいいので、弱い立場の人を守り抜きたいのかどうかっていう考え方の優先順位をまず立てることです。横浜市などでも、なるべく家にいてくださいという作戦を取っていますね。人口が多いからですよね。都市域ならではの戦略を打ち立てる必要があると思います。 谷口副区長 一旦、お時間になりましたので、ここで次の部会に移りたいと思いますが、最後に全体を通した質問の時間をできる限り取りたいと思っておりますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。 では、育ち学び充実・健康長寿推進部会に移らせていただきます。 先ほど松久部会長よりご報告いただきました内容について、論点を簡単に整理させていただきます。この部会よりいただきました意見を踏まえ、子育て・教育、健康長寿などにおける「南区Ｗｅｌｌ－ｂｅｉｎｇ（ウェルビーイング）総合プロジェクト（案）」をまとめております。南区では、南区独自の取組を行う際に、特に広報媒体を活用した勧奨などにより、区民の関心や課題意識を高める必要があると考えております。参加・利用に否定的な方や先延ばしにしている方・迷っている方への対応方法を論点といたしますので、そういった方々へのアプローチの方法や参加を促すようなアイデア、ヒント等についてご意見を頂戴で

	きますと幸いです。もちろん、このほかのご意見でも結構です。 　では、議員の皆様、どなたからでも結構ですので、よろしくお願いいたします。 小堀議員 　「自己肯定感醸成のための安心な居場所」について、どんなご議論があったのかぜひ拝聴したいと思います。残念ながら、この南区には公民館が１か所もないのが実情でして、それに該当するのが地域会館であるとも言えるんですけれども、この安心な居場所というのは、委員の皆様方からどのような居場所を想定しておられたのかお聞かせいただきたい。併せて、この前の光明池祭りでも積極的に保健センターが頑張っていましたけれども、健診受診に係る勧奨ということで、ポピュレーションアプローチが非常に大事だという中で、どのようなアプローチ方法を取っていけば、さらにこうした健診受診や健康への関心を高めていただけるのか。この２点について、委員の皆様方からどのようなご意見があったのか、もう少しお聞かせいただけたら大変ありがたいなと思ってございます。以上です。 松久部会長 　今の２つ目のお話ですと、なかなか浸透していないというご意見が多かったです。ＳＮＳとかＩＣＴのほうに偏ると若者、３０代、４０代ぐらいまではいいんですが、高齢者の方には届かない。また、反対に、アナログ、紙媒体になりますと若い世代には届かない。その辺りをどうして埋めていったらいいのかというようなご意見が出ておりました。先ほどの繰り返しにはなりますが、紙媒体であっても目に入りやすいような文字や配布場所、そして、フェイスブックなどＳＮＳにたけている若者には、よく利用する場所に広報を置いておくみたいなご意見を様々な委員からいただきました。公民館の話は、ちょっと残念ながら出なかったんですが、若い親たちの居場所としては、もちろん小学校、こども園、そういうところに属している子どもをおもちであれば、そこがいろんな相談場所であったり、コミュニティーにもなる。それから、南区ではみみちゃんルームのような子育て広場、こういうところにお越しになる保護者もいらっしゃる。そこでどのように受け止めていくか。虐待の問題などもありますので、そういうところを活用していきたいという話は出ました。 小堀議員 　自己肯定感というと、もちろん、まずは子どもさんということになろうかと思うんですけど、一方で、高齢者の方に対するウェルビーイングを図る指標の自記式アンケートなんかで、長生きしてよかったと思うかとか、なかなか辛辣な項目もあったりするじゃないですか。高齢者の自己肯定感醸成のための安心な居場所がどうあるべきかみたいな議論はございましたでしょうか。もしありましたらご披露願えたら幸いに思います。 松久部会長 　全て記録しているわけではないんですけど、やっぱり人の役に立つというか、高齢者になりますとお仕事からは遠のいておられる方も多いですので、家族の中でお孫さんとかの役に立つというのもあるかもしれませんけど、やっぱりその地域で自分が役に立っている、喜んでもらえるというような気持ちが一番生きがいにつながるのではないかと私自身も考えております。 大島職務代理者 　子どもの場合は、各地域、地域会館で子育てなどいろいろしていまして、そこ

	で親御さんとお話ししたり悩みを聞いたりもしております。それと、いきいきサロンでは高齢者の見守りとか交流などもしています。見守っているほうが高齢化してきて、どっちが参加者か分からないぐらいになっていっているんですけども。年をとっても皆さんのお役に立てているということで、生き生きとして、お一人で暮らしていて、元気にされている方もいます。それはずっと続けていただくように、年いってもいいから続けてくださいねと言っているんです。いきいきサロンで体操などいろいろしていまして、そこでこれだけできているということがすごく大切なことだと思います。一般で参加するよりも、お手伝いしているということに対して、肯定感を持っていると思います。それと、保育所ですね。保育所の先生もいらっしゃって、お子さんのお母さん方のお話をされていました。いろんなところで活躍されている方もいらっしゃいますんで、その辺を自分の居場所としていただけたらなと思います。 藤本議員 拠点といいますか、いろんな方の居場所は、たくさんあるほど地域の方にとってはいいなと思っています。子ども食堂は各地域にあるかと思うんですが、そういった場所が子どもたちの居場所になっているという話も聞くんです。そういった子ども食堂なんかもそういう位置づけにしてもいいのではないかと、私自身思っています。各地の子ども食堂の様子を聞きますと、子どもさん、未就学児や小学生、中学生だけじゃなくて、多様な世代の人が集まる場所になっているところもあると聞きます。そういった場所としての位置づけを、子ども食堂にもいろんな支援もしながらしていってはどうかなと考えたりもします。ふだんから顔を合わせて付き合いをすることが、先ほどもありましたが、地域の中での防災を考えていく基礎にもなっていくのではないかなと考えています。 あと、お聞きしたいこととしましては、参加を促したい対象の方の中に、「参加、利用しようと思っていない方」というのがあります。こういった方たちとつながるのは本当に難しいことだなと思うんですが、こういった方たちとつながって、誰一人取り残さずにウェルビーイングを提供していくことについて、どのようなアイデアが出たのかをお教えいただけないでしょうか。 大島職務代理者 そのアイデアは出てないんですけど、そういう方たちをサポートしていかないといけませんねということです。子ども食堂も地域にとっては大変大切なことです。不登校の子がおられるのですが、そこの子ども食堂だけには来るんです。子ども食堂の方が、今日は子どもさん見えていますよと学校に連絡して、学校の先生が子ども食堂に出向いて子どもさんと話したり、なかなかお母さんとは連絡が取れなかったんですけども、子ども食堂を介してお母さんともお話しできたという話も聞いています。子ども食堂の最初の取っかかりが、食事ができない子どもに対して、食に関してサポートしていきましょうというものであったのが、今は変わってきて、誰でも参加できるということになってきているので、その辺を市がどのように受け止めるか、その辺が大事だなと思うんです。私たちは、皆さんが一緒に食べて、そういういろんな話を聞かせていただいて、いろんなことをサポートしていけたらいいなとは思うんですけども、最初の子ども食堂の成り立ちと現状とが変わってきているので、市がそのことをどう捉えているかをお聞きしたいです。 伊豆丸議員 事業の参加や健診受診に否定的な人へのアプローチについて、受診してほしい人がしてくれないということが多いと思うんですね。堺市では、今年度からナッジの活用を掲げていて、これは一つの参考になるのかなと思っています。もう一

	歩踏み出せない人に対してのアプローチをする。あと、事業、サービスを体系化、データベース化するということなんですが、結果的には行動特性を収集分析するのがすごく大事じゃないかなと思っています。よくアウトリーチ型のアプローチというのですけれど、アウトリーチしても受け取らない人もやっぱりいるわけでして、じゃあ、そこに対してどうやってアプローチするか。例えば特定健診の受診率も堺市４０％ぐらい、非常に低いんですね。これを上げましょうっていう話をしているんですけど。たぶんこれまでの行政にも問題があって、病気になってから治療をするのではなくて、予防医療にシフトしていきましょうと国から方針が出ているのですが、なかなかそこまで追いついていないのが実態じゃないかなと議会側から見ても感じています。そうした中で、先日、健診受診率の向上に向けた実証事業を堺市でも民間事業者と、たしか提携してやるっていう報道があったかと思うんですが、やっぱりこういう積み重ねだと思っていまして、堺市役所にはデータを分析するアナリストとかアーキテクチャーみたいなものってなかなかいないんですね。となるとやっぱり民間事業者とタッグを組んでやらざるを得ない部分はあると思うんですが、やっぱりこういう部分の積み重ねっていうのは今まで行政にはなかなかなかった視点じゃないかなと。それが、この体系化、データベース化につながっていくんじゃないかなと思います。ナッジの活用とデータ分析といった部分は行政もこれから動き出すというところでもありますので、同じ方向を向いて取り組めるんじゃないかなと思います。以上です。 信貴議員 市、自治体の事業に否定的な人へのアクセスについて、デジタル媒体とアナログ媒体の話がありました。デジタル媒体では、おっしゃるとおり、インスタをしたりＳＮＳに積極的になるのは、当然重要なことやと思うんですけど、アナログの媒体でしたらポストに入っていたら、別に自分が求めてないことでも取りあえず紙を見るわけですよね。こんなんもあるんやということになりますけども、ＳＮＳの場合は自分で検索しに行かないと出てこないので、いくらＳＮＳにたけている若い人であっても、関心の低い人、関心がない人は結局見に行かないわけですよ。ですから、「デジタル、ＳＮＳで情報を周知したから若い人は見ます」という説明は、僕は非常に難しいなと感じています。では、どうしたらアクセスできるのか。やっぱり若いうちから、堺市が運営しているプールでもいいですし、図書館でもいいですし、要は公が運営している施設に若いときから携わっていく習慣をつけておくということは、僕は非常に大事やと思うんですね。図書館をきれいにするとかも大事ですし、若い人が興味あるような、例えばほかの自治体でしたら、歌とかバンドするところを行政が部屋を提供して安く貸しているとことかもありましたし、子育てするのに安心・安全な公の施設を市が提供するっていうのもありですし、そんなふうに、全てのライフステージに合わせて、公の施設を使っていくということ。世代に合わせて興味のあることを準備していくことはすごく重要やと思っています。ただ、建物が要るとなると、当然多額の予算も要ります。できる限り少ない予算で公の施設に関わっていく方法を、僕も常日頃考えておりますので、そんなことも一緒にぜひ議論をしていただきたいなと思います。以上です。 松久部会長 貴重なご意見ありがとうございました。桃山学院教育大学でも、堺市立ビッグバンを使って、子育て広場を開催しています。若いお母様方がお越しになり、また大学生にしたら勉強になります。公的機関にビラを置いたり広報していくのもとてもいいことだなと思います。大学の図書館にも地域の方が来られますので、そういうところにも置く。いろんな機関と連携しながら、情報を見る場を増やしていく。おっしゃるように、若いときから公的機関を使用するというのは、すご

	く納得いたしました。 谷口副区長 続きまして、ブランド戦略推進・魅力創造部会に移ります。 先ほど橋爪部会長よりご報告いただきました内容について、論点をお伝えいたします。 ブランド戦略推進・魅力創造部会よりいただいたご意見を踏まえて、南区ブランド戦略（案）として、南区ブランド「＆ＧＲＥＥＮｓ」を、そして、南区ブランド戦略、戦略内容についてまとめました。本日は、特に南区ブランドを浸透させるための方策やアイデアについてを論点とし、ご意見を頂戴したいと思います。もちろんこのほかのご意見でも結構です。 では、議員の皆様、どなたからでも結構です。よろしくお願いいたします。 吉川議員 南区ブランドを浸透させる手段を考えるよりも、南区ブランドが何なのかっていうところまでちょっと理解できてないんですが、先ほど、橋爪先生がおっしゃったように、南区の最大の強みっていうのは、やっぱり豊かな緑だと思うんですね。それぞれの部会で本当によく考えていただいて、今日は本当に勉強させていただいたんですが、この泉北に住んでいること自身がすばらしいと思う、それが一つのブランドだと思うんですね。じゃあ、何がすばらしいと感じるのかというところを抽出していただいているかと思うんですけれども、そこをしっかりと確立するべきだと思うんですね。南区に住んでこういうライフスタイルが実現できるという、「泉北スタイル」とか一時期広報していましたけれども、そういう憧れを持って、この南区に住んでみたいなと思わせるもの、それが一つは緑だと思うんですね。例えば過去の公園っていうのは、あれしたらあかん、これしたらあかんと禁止ばかりの公園で、できることは歩くか走るか寝転ぶかの公園だったので、これは駄目だろうということでしたが、今、様々な公園がＰＰＰ（Public Private Partnership）などで活用できるようになった。市民も楽しめる、堺市も税金の無駄が省ける、事業者もそこで新たな事業が展開できるというこういう三方良しの形なんですけれども、そういったことが緑を中心に一番展開できるのが南区じゃないかなって。私、もともと奈良県出身で、北区に住んで、今南区に住ませていただいているんですが、北区におる頃から泉北ニュータウンに住んでみたいなって、この緑は憧れでしたし。ただ、実際、現場はどんどんどんどん暮らしにくくなっている。そこを置き去りにして新たなブランドの確立ってなかなか難しいんじゃないかなと思うんですね。だって、買物行けないわけですからね、近隣センターがなくなっちゃって。坂道がたがたで、車押して上れませんという方いっぱい増えています。そういう不便を置き去りにしてブランドの確立ってないと思うんですね。そういうこともしっかりとフォローしていく中での「＆ＧＲＥＥＮｓ」は本当にすばらしいなと私は感じました。 それから、提案なんですけれども、いずれの部会の皆さんも広報とか周知徹底とか、個人の意識を変えるとか、個人にアプローチするとかいうことおっしゃってるんですけれども、必要でない情報を与えられても誰も見向きもしない。やっぱりパーソナライズされた情報をピンポイントで与えることが、これからの時代は必要なんじゃないかなと思うんです。大変な労力がかかるような気もするんですが、実現不可能ではないと思うんです。その情報提供も一つのツールとして、私はテレビを使ったらいいと思っているんです。ケーブルテレビっていうのは無料で、多チャンネル使わなければどこでもつなげるわけです。福島県の会津若松市はそれを実現させていったわけですよね。高齢者だってテレビのリモコンは使えます。そこにパーソナライズされた情報を提供されたら、必ずそれに反応すると思います。政策企画部の方も来てはるので、そういう都市ＯＳをつくる上での

	一つのヒントにしていただければなと思うんですけれども、いかがでしょうか。 橋爪部会長 ありがとうございます。ブランディングに、さまざまな知恵が必要だと私も思っております。区民の皆さんに対しても、また対外的にも、どのような媒体でどこにどうアピールしていくのかという戦略的な展開が必要であろうと思います。ブランディングでもマーケティング等でも当然のことですが、インナー、内向きの情報発信と外向きの情報発信がともに大切です。要は関わっている方々、役所の方々、議員の方々、あるいは区民の皆さんが本当に、緑豊かな南区ということを心から思っているからこそ出てくるメッセージがあります。それを周りの人たちが、「あの人たちがそういうふうに思っているから南区に引っ越しそう」、そういう思いを持つようにひろげたいと思います。単にブランディングといって代理店などがＰＲしているだけでは、地域の本気度が伝わりません。ぜひ多くの関係の方々が、本当に大阪の中で緑豊かなまちといえば堺市南区であるということを、内にも外にも出していただく、いろんな媒体を通じてアピールしていくことが重要だと思います。現状、日本中、空き家対策も必要ですし、人口減少期において非常に競争が激しい中で、日本各地でウェルビーイングシティの競争に入っている状況になります。その中では知恵も必要ですし、また皆さんを巻き込んでいく力、私、ムーブメント型だと思っているんですけども、個人に向けての発信によって、その人がまた次の人に伝えていくような、そういうメッセージの在り方が求められます。都市間競争、地域間競争の中で、単に「緑豊かで大都市の近郊」というと、たとえば大阪でいえば緑地公園とか鶴見緑地の周辺、万博記念公園の周辺、あるいは阪神間など、緑のある暮らしができ、既にブランド確立されているところがあります。都市的な利便性と緑のある暮らしの両立ということを個性とする場合、ライバルがすでに多いということが前提となると私は思っております。その中において、やはり泉北、南区はいいねと思っていただくには、ほかとは違う打ち出しが必要です。それをこれから、このブランド戦略の中で具体に私は進めてまいりたい、ぜひご一緒にできればと思っております。よろしくお願いいたします。 小堀議員 実は１点お願いが区役所にありまして、橋爪部会長のお示しいただいた泉北の魅力の緑比率であるとか、まさにこのとおりだと思うんですけど、一方で、ハーベストの丘とか堺自然ふれあいの森、これに至っては、中学校とかで、遠足に使っている学校ほとんどないんです。年に２回しかない遠足のうち１回はすぐそこっていうのは、さすがにそれもどうかなとも思います。ビッグバンなどは歩いて行ける。小学校では１年生の遠足場所になっていますがそうじゃないとなかなか遠足には行けないと思います。学校現場は、本当に今、予算が枯渇しているので、南区の小・中学校で、この施設はこの学年だよねというのはあると思うのですけど、そのときに遠足というと、ちょっと二重になっちゃうんで、校外学習とか、あるいは南区ブランド戦略に位置づけたシビックプライドの醸成のための何とかとかいう理屈をつけて、バス代だけでも補助してもらえたら非常に利用率も高まるし、その結果、行ってみればこんなにいいとこがあったということで、逆に今度は親子連れで行こうかなという気にもなるだろうし、逆に親子連れで行ったことがあっても、友達と行くのはやっぱり全然雰囲気が異なると思うんで、その辺はぜひ区としても力を入れていただきたいなと思うので、お願いをしておきたいと思います。以上です。 信貴議員 ぜひ教えていただきたいことがあるのですが、ご存じのように、南区はベッド

	タウンとして発展してまいりまして、我々も南区の魅力を話すときに、ここに住んだら３０分かからずに難波行けて乗換えなしで行けるよ、とそういうベッドタウンとしての魅力、通勤、通学、非常にしやすいことをＰＲしてきたのですが、それこそコロナ禍もありまして、テレワークというのが少し浸透して、仕事場まで行かなくてもいいというような価値観が新たに生まれたと思うんです。そういった中で、じゃあ、この南区はこれからどういうふうに売り出していったらいいのかっていうのが、私自身なかなか整理できてない。私は、やっぱりベッドタウンっていうのは非常に魅力なので、そこは、この時代でも推していきたいというふうに思っているんです。例えば南区の魅力として「緑」と資料に書いていただいていますが、その緑の中にはいわゆる緑道が走っており、その緑道を使えば、私一度実験したんですが、一番遠いところからでも自転車に乗ったら、信号がないので、駅までほぼ１０分ぐらいで行けるんです。駅から１０分圏内っていうのは、空き家もない、マンションも買ったときと同じぐらいの価格で１０年たっても売れるぐらいの非常に人気のある地域ですよね。緑道で自転車を使えば、ほぼ南区の全域が駅から１０分圏内ということで、要は電車を使う人に非常に魅力の高い地域だと思うんです。ただ、それが、今のこのコロナ禍の中でベッドタウン泉北って売出しが、果たしてこれからの時代に合っているのかどうか、これからどういうふうに売り出していくべきなのかというのを、ぜひとも教えていただきたいと思います。 橋爪部会長 世界の都市の潮流でいうと、「20 分生活圏（20 minutes neighbourhood）」とか、「30 分生活圏（30 minutes neighbourhood）という考え方があります。全ての公的サービスや都市的な機能に何分でアクセスできるのか、時間距離から行政のあり方を考えるという発想が、この１０年ほど議論がされています、日本にあっても同様の傾向があり、大体２０分でアクセスできるようなまちを我々はつくらねばならない。都市的な利便性にどれほど容易にアクセスできるのかを約束するのが行政であろうということです。このように考えると、ベッドタウンといいながら、やはり都会的、商業的な都市機能や様々なサービスにアクセスできるという部分が求められます。都市と優れた住宅地が一つになっているという両面を持つことが必要です。同時に、先ほどおっしゃったワーケーションやデジタル化がありますので、これからは従来のベッドタウンという概念を、少し変えていかなければいけないと思います。今、大阪府でグランドデザインをつくっており、私が学識で入っております。そこでは沿線を重視、ターミナルと郊外との新しい形というものをこれからつくっていかなければならないという議論をしています。こちらでいえば南海沿線、泉北高速沿線全体としていかに魅力的な連携が取れているのか、ターミナルと郊外との新しい形というものをこれからつくっていかなければならないという議論をしています。例えば京阪の枚方駅前とかは、今、面的再開発をしてオフィスビルとかホテルとか入ってきています。かつては郊外住宅地でしたが、都市的な機能に接することができるという利便性もきっちり担保された新しい郊外の拠点をめざしています。泉北も髙島屋さんとか南海電鉄さんなどと、官民連携ですばらしい次世代型の郊外というものをつくるタイミングに来ていると私は思っております。委員の中にも、公園でいろんな活動をされている方もおられます。新檜尾公園などすばらしい公園があります。皆さんの意見を聞くとメタセコイヤがすばらしいとのことです。たとえばお子さんたちが、ふるさとはどこかと問われたときに、ああいう公園の風景が誇らしげに想い浮かぶような、そういう南区にしていければと思います。随所に緑のある風景がありますので、それが、次世代の原風景になればと願っております。 西村職務代理者

	私がこの南区に越してきたのは約３０年前。そのとき選んだ理由が、やっぱり緑と、それから近くに教育機関、小学校とか幼稚園とか、実際にお買物ができる場所が歩いて５分ぐらいのところにあるということで、迷いもなくこの地を選んだんです。それから約３０年。ところが、先ほど吉川議員がおっしゃったように、実は今、南区の中では残念ながら買物が非常に困った状況になってきています。これは地域の人が動くか、実際に物が動くかというところで、生協さんであったり、それぞれ来ていただいてやっている。また、もう一つは、実際に人がそこまで行くという形の制度も動き出しています。ブランドイメージを考えたときに、住みやすいまちであって、住んでよかったまちにしていかなきゃ。ここに来てもらうには、住みやすいまちということアピールしていかなきゃいけないし、定着させるためには住んでよかったまちだねという評価をもらわないと、若い世代はこのまち嫌だって言ってすぐにまた違うところへ移ってしまう。やはり我々の議論の中にもあったんですけども、やっぱり住んでよかったねと言ってもらえるようなまちにしていきたい。そのためにはまちのブランドイメージって何だろうというところで、「＆ＧＲＥＥＮｓ」というのが出てきたということでご理解をしていただければと思います。 南区のニュータウンというのは、新しい時代に突入していると思います。今までのように人がどんどんどんどん入ってくるという時代ではなくて、やっぱり若い人が集約的に入ってきてもらえるような施策が必要になってくる。そうすると、先ほど言いましたように、例えば病院なんかは、正直言ってやるべきことはたしかにあると思いますし、実際には買物っていうところを、今後詰めていかないと、南区自体はその辺のところで苦しい場面が出てくるだろう。行政では、１００円でお年寄りに対してバスでお出かけができるようにもしていただいているんで、割と利用率は高いと思うんですけども。先ほどケーブルテレビのお話しをしていただいて、僕は思い浮かんでなかったんですけど、そういうのも一つの手かなと。ＳＮＳは、私、区長のフォロワーとして入っていますけども、やっぱり各区の区長さんがＳＮＳを持っているが、残念ながらそんなに多くフォロワーがいらっしゃるわけじゃない。ということは、やっぱり届いてないというのが多いんじゃないかなと思います。そういう意味では、いろんな媒体を通じて、いかに区の皆さんに披露していくかということが、ウェルビーイングもそうなんですけど、一つの焦点になってくるだろう。逆に言えば、議員方は、各地域で活動されていると思うので、こういった活動をＰＲしていただいて、「南区っていいところですよ、こういう活動をしてますよ」ということを、ぜひともご披露していただければなと思います。 谷口副区長 では、お時間の都合上、全体通してお一人の方、よろしくお願いいたします。 三宅議員 まず、こども防災士の話なんですけども、災害は時間を待ってくれませんので、いざ事があったときに恐らく校区内の小、中学生の方に高齢者を助けていただかないと動けないと思いますので、お考えいただければと思います。 あと、ウェルビーイングですが、健康になればなるほどやはり長寿である、長寿であればあるほど、今、晩婚化していますので「ダブルケア」、介護しながら子育てをする。子どもとけんかしながら、おばあちゃんが家の中でけんかをして、喧々諤々やっているんですが、そういった事柄も、やはり泉北は非常に特徴的になっているんではないでしょうか。この健康推進と子育ての両だて、「ダブルケア」は、泉北の課題というか必然ではないかなと思っています。 それから、「＆ＧＲＥＥＮｓ」、私のイメージではグリーンといえば緑道です。橋爪座長がおっしゃっていただきました、メタセコイヤ、新檜尾公園につい

	ては私も議会で議論させていただいています。まさしくイメージ「グリーン」を上げていくことによって泉北ブランドを上げる。今あるものを使ってとにかく人に住んでいただくということが私たちの課題ではないかと思っています。欠点ばっかり荒さがしするのではなく、よい点を少しずつでも提案しながら、泉北のブランド価値を高めていきたいと思いますので、今後ともご示唆、ご指導また、アイデア等賜りましたらと思います。以上でございます。 ３．閉会 谷口副区長 ありがとうございました。 それでは、お時間となりましたので、本日の意見交換会につきましては、これにて終了させていただきます。 本日は、議員の皆様から貴重なご意見をいただき、大変有意義な意見交換会ができましたこと感謝申し上げます。 本日の意見交換会の内容につきましては、１１月１４日の全体会や今後の南区の取組に生かしてまいりたいと考えております。 本日は、お忙しい中、誠にありがとうございました。 閉会（午後４時３２分）